

中間案(素案)

(仮称)仙台市ダイバーシティ推進指針
【概要版】

令和 年 月
仙 台 市

「(仮称)仙台市ダイバーシティ推進指針」中間案【概要版】

1. 仙台のまちづくりとダイバーシティ

- 藩祖伊達政宗公が全国からさまざまな職人を積極的に招き、世界との交流を志し慶長遣欧使節団を派遣するなど、多様性を受容し、多様な人々の力をまちづくりに生かしながら都市としての歩みを進めてきた
- バリアフリーまちづくりなどさまざまな課題に市民と行政の連携で取り組むなど、多彩な市民協働の取り組みで「杜の都・仙台」の個性や魅力が育まれてきた
- 近年では本市の取り組みが国連やOECD等から注目され、ナノテラス※運用開始、東北大学の国際卓越研究大学認定見込み等、国際的に開かれた多様性のまちづくりへと進んでいる



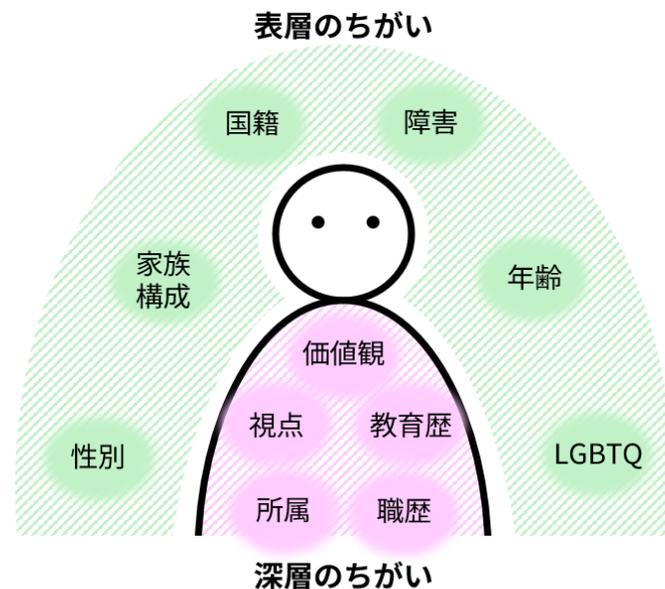
**変革期を迎える今、歴史・文化・都市個性を踏まえ、
世界を視野に調和のとれたダイバーシティまちづくりを推進**

2. 仙台市が目指すダイバーシティまちづくり

(1)ダイバーシティの変遷

□ダイバーシティの取り組みにおいては、性別、人種・民族、年齢などの「表層のちがい」だけでなく、近年は価値観や経験、教育や職歴といった「深層のちがい」への配慮も含むようになってきている【図1】

□OECDやG7都市大臣会合において多様で包摂的な都市に関する議論が行われるなど、ダイバーシティを都市政策と捉え、都市の発展に繋げようとする試みが進められている



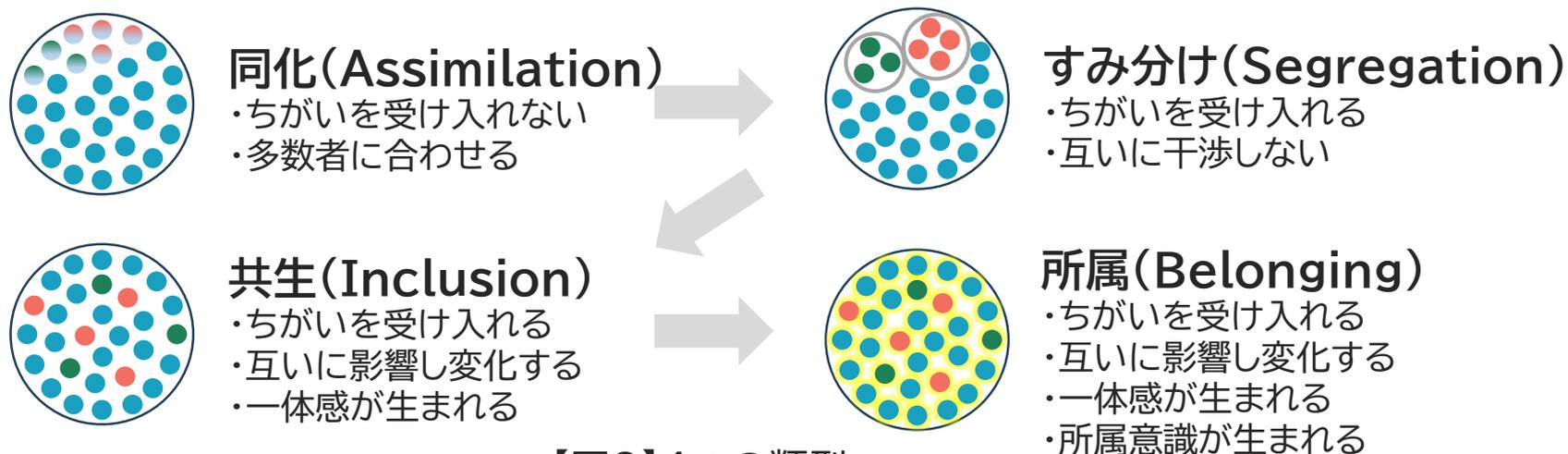
出典: Harrison et al 1998 の定義をもとに作成

【図1】さまざまなちがい

2. 仙台市が目指すダイバーシティまちづくり

(2)4つの類型

組織や社会がちがいを認識し受け入れていく類型は、“同化”から“すみわけ”、さらに“共生”へと広がり、近年では組織や社会に愛着や居場所感を持てる状態の“所属”への視点も注目されている【図2】



【図2】4つの類型

(3)ダイバーシティの効果

ダイバーシティ推進により、地域への愛着や参加意識が高まる、内外から人材や投資を呼び込む、新たなアイデアやイノベーションを生み出す源泉になるといったさまざまな効果があると考えられている

2. 仙台市が目指すダイバーシティまちづくり

(4) 仙台市における背景

◆多様な人材の集積

高等教育機関や、民間企業の支社・支店、国の出先機関が集積し、多様な人材が集まり、豊富な関係人口を有しているほか、起業支援等にも力をいれている

◆市民協働の歴史

市民運動と行政の連携の中で、バリアフリーまちづくりや環境美化運動などの取り組みが進められ、1999年に市民活動サポートセンターを公設民営で設置。市民活動団体等のアイデアや若者の発想を取り入れた取り組みを進めている。

◆グローバルな視座

伊達政宗公による慶長遣欧使節は、仙台を起点とした国際交流のさきがけ。約120年前から留学生に門戸を開き、全国に先駆けて国際姉妹都市を締結するなど市民レベルでの交流を継続。近年は東北大学の国際卓越研究大学認定など世界を見据えた大きな変化の時期にある

2. 仙台市が目指すダイバーシティまちづくり

(5) 仙台らしいダイバーシティまちづくり

- 本指針では、ダイバーシティまちづくりを以下の3つの状態を目指す取り組みと捉える
 - ① 多様性を受容する
 - ② 互いに対等な関係を築こうとしている
 - ③ 全体として調和がとれている

- ダイバーシティの推進により目指す都市の姿は、その都市の持つ歴史的・文化的な背景や、時代によって変化する

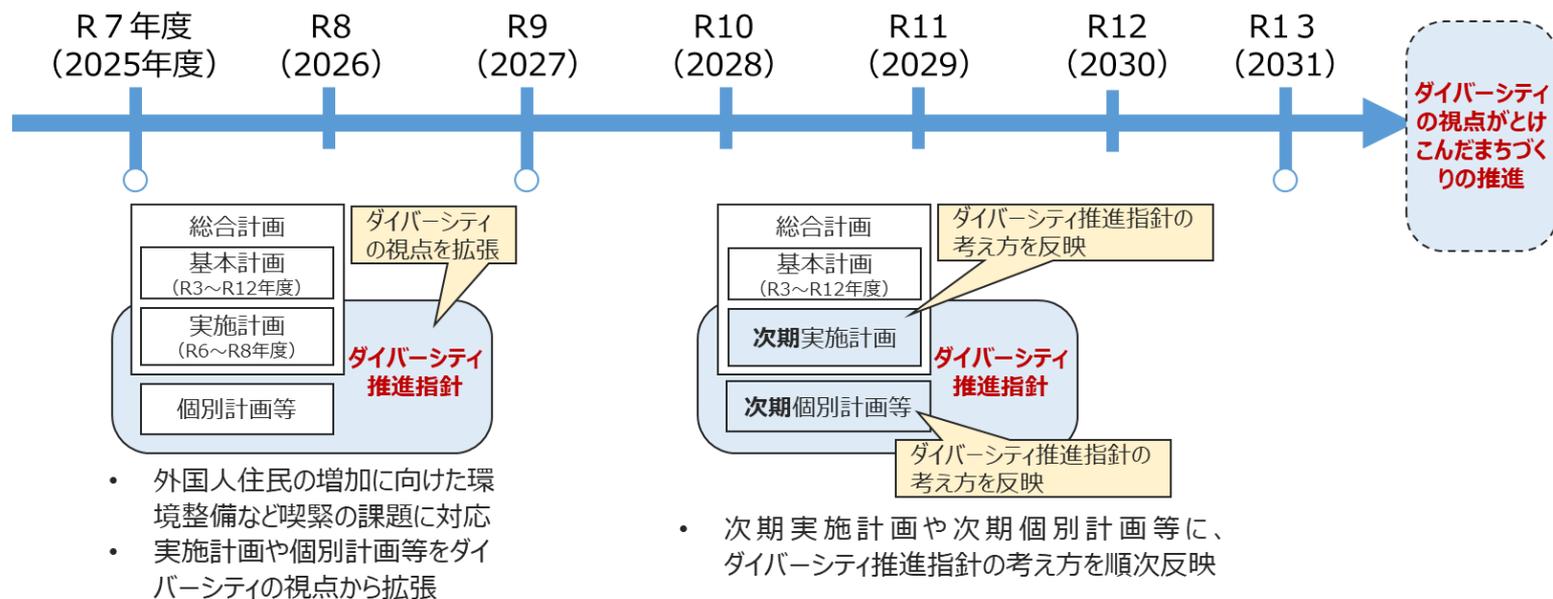


本市の歴史文化や都市個性への誇りと愛着を土台とし、これを尊重しながら仙台にふさわしい多様で調和のとれたまちを目指して実践を重ねる、「仙台らしいダイバーシティまちづくり」を進めていく

2. 仙台市が目指すダイバーシティまちづくり

(6) 本指針の位置づけ

- 本市のさまざまな施策を検討・実施する際に盛り込むべきダイバーシティの視点等を取りまとめるものであり、実施計画や分野毎の個別計画等に掲げるまちづくりの視点や施策の方向性をダイバーシティの観点から拡張
- 指針策定直後から具体の事業に取り組みながら実施計画や個別計画の改定において、推進指針の考え方を順次反映



3. 施策検討・実施の際の指針

基本的理念

◆ 仙台の歴史・文化・都市個性の尊重

日本初の女子大生の誕生、全国に先駆けたバリアフリーまちづくり、多様な主体が担う防災・減災の取り組み等、本市の多様性を尊重する歴史や文化、市民協働といった都市個性を大切にし、ダイバーシティまちづくりの推進力に変えていきます

◆ 多様な主体の参画

多様な主体が参画し、さまざまな価値観や発想、視点が交わることで新しい気づきやチャレンジが生まれ、地域課題の解決等にもつながることから「当事者が関わる」、「参加や議論の場を設ける」、「さまざまな機関や団体、事業者と連携する」などの取り組みを積極的に検討・実施します

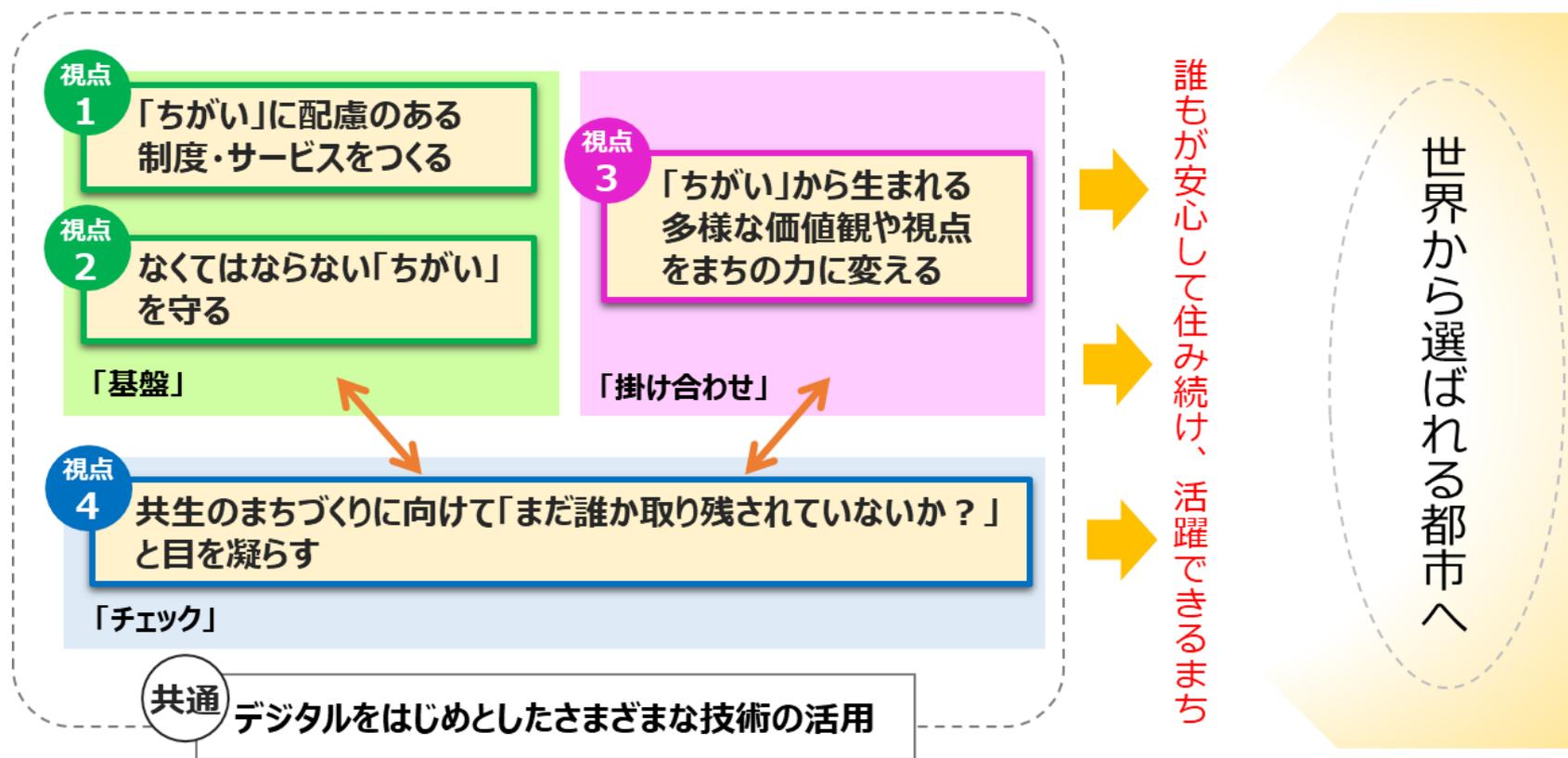
◆ 地域への展開

さまざまな機会を通じ、多様性に触れ、理解するための取り組みを推進します。また、市民活動や企業活動におけるダイバーシティ推進の機運を醸成するとともに、民間の発想やスピード感をダイバーシティまちづくりに生かすため、積極的な官民連携により地域全体で進めていきます

3. 施策検討・実施の際の指針

取り組みの視点

基本的理念を踏まえ、施策を検討・実施する際に考慮すべき視点として以下の4つを掲げ、共通する事項として、デジタルをはじめとしたさまざまな技術の活用を位置づける



3. 施策検討・実施の際の指針

視点 1

「ちがい」に配慮のある制度・サービスをつくる

さまざまな制度やサービス、ルールを、多様な価値観やニーズを踏まえ、かつ多様な選択ができる柔軟で配慮あるものにし、誰もが安心して快適に暮らせるまちを目指す

- ① **不利益をなくす**; ちがいから生じる不利益に対応した施策の実施などに向け制度等の影響を受ける当事者の意見を聴く場を設定 / 合理的配慮 / ユニバーサルデザインの発想を導入

例: ひとにやさしいまちづくり条例、公共施設等のユニバーサルデザイン化

- ② **平等だけではなく公平**; 必要に応じ個々に合わせた支援内容の調整など公平な対応 / いわゆる「マジョリティ」側の不平等感や不安に対応した説明・周知

例: 市長定例会見等での手話通訳、各種様式の多言語化

3. 施策検討・実施の際の指針

視点 2

なくてはならない「ちがい」を守る

ちがいへの理解を深める取り組みや、多様な選択ができる仕組みづくりにより、多様性が尊重されるまちを目指す

- ① 「ちがい」への理解; ちがいを前提とした思考 / ちがいを持つ個々の職員が力を十分に発揮できる環境づくり / 学びや疑似体験の機会、対話や交流の場の創出

例: やさしい日本語講座、学校教育における道徳教育・探究的な学習

- ② 「ちがい」の尊重; 多様な選択が可能となる取り組みの推進 / 地域や組織が多様な考え方に触れ、意識を変えるきっかけづくり / ちがいを尊重することで生まれる変化についての丁寧な説明等

例: 給食でのアレルギー対応、育児参加のための休暇、時差出勤

3. 施策検討・実施の際の指針

視点 3

「ちがい」から生まれる多様な価値観や視点をまちの力に変える

多様な人々が交流し、それぞれが持つ知識や経験、考え方などが掛け合わされることで、新しい発想などが生まれやすくなる。ちがいを受け入れ、尊重し、お互いに影響し合うことで、ちがいを強みに変えていくことが必要。属性に関わらず誰もが成長の機会と恩恵が得られ、地域全体が成長する包摂的成長を目指す

① **安心して「ちがい」を表現できる**;多様性を認め合う環境整備の推進 / 当事者や少数意見に積極的に耳を傾ける / ちがいは克服しなければならないものではなく、価値あるものという考え方の浸透

例:啓発イベント、市民意識調査など施策に関するアンケート調査

② **対話・交流の場をつくる**;多様な主体が参画できる仕組み作り / さまざまな属性や背景を持つ市民の交流・対話を推進 / 魅力的でアクセスしやすい公共空間の整備や都市インフラの確保

例:市民ワークショップの開催、勾当台公園や定禅寺通の再整備

③ **掛け合わせ**;局区・分野・産学官民など多彩な連携施策を積極的に立案 / 多様な人々の発表の機会や表現の場の創出 / 地元中小企業への支援や起業家の育成を強化

例:各種連携協定の枠組みを活用した共同事業

3. 施策検討・実施の際の指針

視点 4

共生のまちづくりに向けて

「まだ誰か取り残されていないか？」と目を凝らす

人は関心のないことには気づきにくく、意識的に目を配る必要がある。また、地域の中のつながりや支えあいの仕組みは、取り残されている人への気づきと支援につながる。市民協働によるまちづくりの積み重ねを活かし、確認と点検を繰り返すことで誰一人取り残されない社会の実現を目指す

- ① **実態の見える化**; データ等の収集・分析とデータを活用した多様な人々の対話促進 / 専門家等の意見を取り入れた必要なデータの検討 **例: 各種実態調査**
- ② **無意識の思い込みへの気づきや固定観念の払拭**; ちがいは内面的で見えにくいものもあることに留意 / いわゆる「マイノリティ」と「マジョリティ」の流動性への理解 / 「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」への理解促進と修正に向けた誘導 **例: 男女共同参画の視点に照らした本市広報物の表現に関する周知**
- ③ **安心して暮らせる共生のまちづくり**; 誰もがケアし、ケアされる存在として互いに支え合う視点を重視 / 地域への愛着を持ち安心して心地よい居場所があると感じられることで多様性をより大きな力へ / 市民協働により多様な人が受け入れられ支え合えるさまざまな「居場所」を創出

例: 子ども食堂への支援

3. 施策検討・実施の際の指針

共通 デジタルをはじめとしたさまざまな技術の活用

デジタルなどの技術はコミュニケーションの可能性を広げ、「公平性の確保」や「アクセシビリティの向上」に役立つことから、最大限活用。多様性に富んだ寛容な都市は、新しい技術を倫理的・法的・社会的観点から検証しやすく、ダイバーシティとイノベーションの掛け合わせによる地域全体の成長が期待

① **市民の利便性向上と参加の促進**; 技術の活用による公平性・利便性の向上及び参加できる環境の整備

例: 手続きのオンライン化、音声読み上げソフト、翻訳ツール

② **新たな技術の開発**; 多様性に配慮した新技術開発促進

例: 仙台市×東北大学スマートフロンティア協議会における新技術の開発・実証

③ **データに基づく現状分析と施策立案の循環**; 公共データ等の共有・分析による施策立案・現状評価・向上の循環創出

例: SENDAIデータダッシュボード、仙台市オープンデータカタログ

4.推進体制

推進指針の策定後、仙台市ダイバーシティ推進本部会議にて状況確認およびダイバーシティ推進に向けた協議を行い全庁あげて取り組んでいく。また、ダイバーシティ推進に関連するまちづくりの指標となるさまざまな分野の幅広いデータを取りまとめ定期的に公表する

